

平成29年度第2回富里市都市計画マスタープラン有識者懇談会  
議事録

〔 日時 〕 平成29年10月6日（金） 13:30～15:30

〔 場所 〕 富里市役所本庁舎3階第3会議室

■出席者

石橋副市長

（座長）富里市商工会：経済

（委員）千葉県県土整備部都市整備局都市計画課長：都市計画

千葉工業大学副学長：都市計画

千葉大学法政経学部：協働

富里第一小学校区まちづくり協議会会長：防災

千葉県印旛農業事務所改良普及課長：農業

株式会社ちばぎん総合研究所調査部長：経済

富里市立浩養小学校校長：教育

富里市民生委員児童委員協議会会長：福祉

富里市シルバークラブ連合会：福祉

成田赤十字病院副院長兼事業部長：医療

千葉交通株式会社専務取締役：交通

〃 自動車部長

富里市廃棄物減量等推進審議会会長：環境

（事務局）吉池都市計画課長，永田主査，戸村主査，斉藤副主査

大日本コンサルタント：古谷・木下・秋山

（傍聴人）なし

寒 郡 茂 樹

立 木 督 則

鎌 田 元 弘

関 谷 昇

川 島 年 雄

佐 藤 美 智 子

関 寛 之

渡 邊 薫

宮 川 朱 実

栗 飯 原 有 禎

込 山 克 司

鵜 澤 尚 夫

（代理・河合 俊彦）

大 道 正 義

■欠席者

成田国際空港株式会社執行役員 共生・用地部門

地域共生部長：経済 岩 澤 弘

■配布資料

- ・平成29年度第2回富里市都市計画マスタープラン有識者懇談会次第
- ・委員名簿
- ・都市計画MP改定全体構想素案
- ・素案の概要
- ・工程表

## 1 開会

## 2 あいさつ

- ・富里市都市計画マスタープラン策定委員会会長（副市長）より、あいさつがなされた。

## 3 座長あいさつ

## 4 議題

- ・都市計画マスタープラン全体構想素案について
  - ・事務局より、議題の概要について説明。
  - ・資料について説明（大日本コンサルタント(株)：木下）

寒郡座長：

- ・みなさまからご意見をということになりますが、お一人ずつ発言をお願いします。
- ・本日は、できればお一人お一人の方からご意見・ご質問等をいただきたいと思っている。冒頭に立木委員から、千葉県の全体的な考え方をお話いただきたい。

委員：

- ・千葉県に限らず、テレビ等で言われているとおり、これから人口減少・高齢化していく。そういう時の都市計画はどうあるべきか、国・県・市町村も未経験なところに進むため非常に難しい状況と認識している。私の若いころは、都市は拡大し人口は増えるものとしており、都市計画は考えやすいものだった。都市活動があるため将来的に人口が増える見込みでそこへ拠点を作り、道路や駅周辺を整備すると描きやすかったが、人口減という中で考えると、今まで拡大してきた市街地をどういうふうに整備していくのか。「ただ縮めれば良い」ということにはなかなかならない。その中で市町村が考えていることは、「今居住している人が今後も世代を引き継いで住んでもらえるようなまちにしていくこと」がひとつある。それには魅力づくりや住みやすさ、ハード・ソフトと色々な事柄があると思うが、そういう点が大事になってくる。さらに行政的には、市外から移り住んでもらえるような市になると、人口減少がある程度は少なくなり、活気も生まれるまちとなる。それが持続していけるというところになるため、その面から都市計画マスタープランは非常に重要で、富里市が将来どういうまちになるか、ある程度形にして出していくものであり、大事なものであると思っている。

マスタープランは、都市計画の方針であり、それを基本にまちを作っていくものになる。言い方はあまり良くないが以前はもっとラフであり、今は全体的な千葉県のマスタープラン、県として県土をどういう方向で作っていくかがある中で、それを

受けて各都市計画，富里市であれば成田都市計画にあたるが，その中でより身近で具体的なまちの姿を示すのが市のマスタープランとなる。概略の説明を受けたが，全体的にわかりやすい方向性で進めていくのが良いと思っている。

繰り返しになるが，都市計画担当として人口減少・高齢化の中で都市はどうあるべきか。国でも「早急に都市の姿は変えられないため長い時間がかかるであろう」としているが，サービス施設に関して，今まで通りだと大きさにこれまでと同じサービス水準が維持できないとすれば少し縮めていく部分も必要となる。サービス拠点は確保しながら，それぞれ市域のバランスを考えるとという観点から，それぞれ身近なところからの考えをマスタープラン作成の場でお話いただければ良いと思う。マスタープランについて，行政も手探り状態でこれから先を検討して進んでいるという状況である。

委員：

- ・名簿では「都市計画が専門」とあったが，どちらからと言えれば農村計画が得意である。そういう意味では富里市の地形図を見ると非常に馴染みやすい。逆に言えば都市計画マスタープランもそうだが，地域計画としてどう見ていくかが重要だと考えている。本市の都市計画図を見ると，成田に近接しているということもあり，それが必ずしも悪いことではないが，市街化調整区域で宅地ののにじみ出しなどが見えている。〇〇委員の話にもあったように人口減少において，どうしても宅地化について経済原理を安価に求めやすいというところであれば，市街地に連担しているところは宅地化を持ってきやすいという部分もある。一方で立地適正化や，公共施設から優先的にコンパクトに持っていき宅地に誘導するという中で，もう一方で農村の方が農村らしくなくなるという方向もある。その辺は都市づくりの基本方針の中で，定性的には書かれていると感じている。

色々な言い方があるが，景観的な側面からすれば田園と調和していくまちが良いのか。それともコンパクト化と言いながら，短期決戦でコンパクト化はなかなか難しい。どういう風に誘導していくか，市民協働なども踏まえながらどう考えていくのか。最近ではハードの意味での都市計画マスタープランだけではなく，住民自身がそういう意識を持つコミュニティマスタープランとして表現し，地域の中で自分たちのハードを含めた将来像，ソフトを検討し，人口減の中で考えていくということを誘導しやすいようにする。マスタープランの中で何をするか，すぐに該当はないかもしれないが，そういう観点があるとより良い気がする。要するに，都市計画マスタープランの中に全部入れ込むのではなく，総合計画，都市計画マスタープランを受けて福祉計画や防災計画など様々な関連計画があるため，接点をしっかりと取っておくことが重要だ。

これまでは人口増が前提だが，本編P22を見ると，中間年で総人口が減り，目標年

ではさらに減るという想定である。人口減の状況の中で開発構想エリアを設けて、その開発構想エリアをより成功させるような方向とすると、市街化調整区域でも人口は減るが部分的に戸建のミニ開発のようなものが増えていけば、その辺はどうしても辻褃が合いにくくなるのが懸念される。さらに市街化区域の中で今後、生産緑地の問題や新しい用途地域で田園住居地域など、都市緑地の在り方も求められている。空き家、空地、耕作放棄地の問題など、農村計画側から都市計画をしっかりと見ていく点は、今ほど求められているところはないと思う。

点・線・面・ゾーンで塗ると一色のように見えてしまうが、そうではなく、このなかにきめ細かく、河川や地形、地質など見えてくるものを意識してほしい。マスタープランといえどきめ細かいものがあると、それこそが将来に繋がるものになる気がする。

委員：

- ・ひとつは協働に関して、もうひとつは土地利用、ゾーニングに関する部分で、2点についてコメントしたい。

このマスタープランにおける協働の位置付けだが、明確さが足りないというのが率直な印象だ。様々な方針等々あるが、協働とは目標ではなく手法である。つまり色々な立場の方々が連携し合って色々なことを作り出していく。子育てや教育、都市計画、高齢者福祉などどんな分野・領域においても、今後行政が単独でやっていけることには限界がある。言い換えれば市民の力、地域の力、事業者の方々の力などをどんどん活かしていかないと、人口減少社会は乗り切っていけないという状況下にある。分野や方針が縦割りであるとするなら、協働は横串のように位置付けるべきではないか、というのが個人的な意見である。例えば本編P21の目標3の方針3で「自助・共助・公助」の話や、本編P36『都市施設の方針』の公園緑地のところで協働等について出てきてはいるが、断片的に位置付けるというよりは、横串として位置付けていく。広い意味での都市計画のどの分野においても、今話したような意味での協働ということは、手法としてはおそらく取っていかざるを得ない。協働の中の色々な手法があるため、それはそれぞれの課題や分野・領域において、どういう方々とどういう連携をしていくか、この形は色々あるが、全体として協働をどう位置付けておくべきかということを、都市計画マスタープランの中で明確にしておかないと、少しぶれてしまう可能性があると思われる。

2点目はゾーニングや土地利用等について、それぞれの拠点ごとの在り方になる。概要版P2『2 将来都市構造』にゾーン区分や拠点とあり、コンパクトシティを念頭に置いた将来図が描かれている。協働の点からすると、例えば生活拠点をどう捉えているのか。私は富里市で「協働のまちづくり計画」を立て、それが今も動いているが、その中で想定していたのは、もちろん様々な方々の力を相対的に活かす

こともさることながら、地域拠点をどう活かしていくか。ここで言うと生活拠点、学区単位での取り組みが非常に大事になってくる。行政の縦割りもさることながら、コミュニティの縦割りもまだまだある。色々な立場の方々、市民相互で交わっていく拠点を多角的に考えていく必要があり、学区単位のような地域コミュニティの形成維持ということを謳っていた。これはそういうことを拠点としながらも、色々な動きが繋がってくるかどうか。ここでは生活拠点として具体的にどういうイメージをされているかはわからないが、地域の拠点はそこに子育てや高齢者福祉があるなど、色々なことがコミュニティベースで繋がってくる。繋がってこないし、活かせるものは活かさないし、連携できる部分も連携できなくなる。結局棲み分けで行なっていたのは、人口が増えお金がある時代の話になる。これから両方減っていく中では、これまで棲み分けで行なってきたものをもっと積極的に結び付けていく。地域コミュニティとはまさに結節点となるイメージだ。生活拠点や地域拠点というものがどういう意味合いで位置付けられているかにもよると思うが、そのあたりをもう少し意識した描き方になると良い。広域拠点は交流人口等の話になるためこれで良いと思うが、拠点の在り方はもっと重層的にすることだ。生活拠点がそれぞれあり、さらにそのうえに広域的なものが重なっていく。平面をただ割るという話ではなく、それぞれの次元において立体的に重ねあわせていくことが拠点のイメージだと思う。そういうイメージのもとに考える必要がある。

集約型で都市計画を考えていく時に、宅地や新しい開発、建替え等におけるコンパクト化へ向けた誘導等を含め、そういう方向性へ誘っていくプロセスをどう描くのか。方向性はある程度良いとは思いますが、これに向けたプロセスをどういう風に辿っていくのかが見えてこないし、いきなりこの方向に進めるわけではないと思う。そういう意味では、どういう大まかなプロセスを経ながらこの方向を目指していくのか。今から30年後を想定するなら、30年というスパンをどういう風なプロセスのもとに進めていくかが加わると、より具現性が高まると思う。

委員：

- ・平成14年に都市計画マスタープランが策定されたが、今回の改訂では地域コミュニティという点が謳われている。一般市民、住民組織、事業者、行政という方々がまちづくりをしていくが、都市計画マスタープランとは何なのか。一般市民からすると都市計画マスタープランとは何か、これを全部見ても理解しにくいところだ。できれば改訂のなかに都市マスタープランの概要や役割など、わかるようにしておいた方が良い。その役割の中で、まちづくりとは住民組織、地域コミュニティ、地権者、企業、事業者など色々に関わる人がいることをわかりやすくする。一般には道路の整備や建築物を建てるのが、都市計画に関する直接的なイメージだと思うが、産業や福祉、環境等にも関わりを持っている。そういう都市計画マスタープランの

役割、この中にも示されている基本構想との関係、県で策定する都市計画区域マスタープランとの整合性を図り、都市計画マスタープランが作られる。この点について誰もがわかるような表現があった方が、マスタープランを進めるにあたっては、住民は理解しやすいのではないかと。これから地域別懇談会等が開催されるとのことだが、一般的に住民の都市計画マスタープランへの周知度は限られていると思われる。そういう点から、改訂の序章など、はじめの部分に説明を加えた方がよい。最初から見れば色々出てくるが、要約した形があった方が私は好ましいし、住民の理解も得られやすくなる。

本編P49に防災に関する記述がある。富里市では自主防災組織の立ち上げを学区毎に行い、かなり進んでいると思う。防災訓練や防災活動、資器材の購入に対する助成金は今年度で終わりとなる。このなかに「自主防災組織の育成、市民の防災意識の向上と防災意識の普及を図る」とあるが、具体的にどういう育成を図っていくのか。

事務局：吉池課長

- ・ご意見は承っておく。前段として都市計画マスタープランについては、都市計画の基本的な方針として、方針を定めることになっている。またこの方針を受けた具体の事業計画については、そちらのほうで謳わせてもらえればと考えている。まずは総体的な方針・方向を定めさせていただき、具体の事業や計画上出てくるものについては、その中で検討させていただければと思う。

委員：

- ・本編P49, 50に対しては『都市防災の方針』を方針付けている。災害に対しては「富里市地域防災計画」に基づき、国や県の方針が変わると見直されている。この中にも対策は入れているが、「富里市地域防災計画」があることから、「災害発生時には地域防災計画に基づき、迅速な救護、支援活動を行なう」という表現を入れた方がよいと思う。

事務局：吉池課長

- ・本編P50の一番上で「富里市耐震改修促進計画」と謳っている。これは建築物等についての耐震計画となる。この耐震計画を策定するうえでの大前提で「地域防災計画」が上位計画としてあるため、そのあたりの記述も加えさせていただければと考えている。

委員：

- ・本編P44『②雨水排水施設』で、「根木名川、高崎川、江川、木戸川の最上流部に位

置する」「各河川の改修促進を県に要望していく」とある。これは一般河川もすべて県が管理しているという認識で良いのか。

事務局：吉池課長

- ・正確ではないのかもしれないが、河川法に基づいて河川指定されているところについては、県の管理と考えている。そこから上流の、例えば土地改良区で持っている河川敷や水路については、そういう団体が管理していると考えている。

委員：

- ・高崎川だが、関係市町で流域対策協議会が10年以上前から組織化されており、その中でも検討されている。「各河川の改修促進を県に要望していく」という一辺倒だが、協議会には県の土木事務所が入っている。端的に「県に要望していく」というスタンスはどうかと思う。

事務局：吉池課長

- ・「県に要望していく」ということでは端的であり、県だけになってしまう。関係機関も含めて、記述についてはボリュームを増やす形で考えたいと思う。

委員：

- ・富里市はスイカを中心とした農業のあるまちづくりで、農業地域として発展してきた。現在は就業人口が減り、この10年間で2886人が1910人となり、3分の1にあたる1000人近くが減ってしまったことで、非常に厳しい状況に置かれていると思っている。一方で経営耕地面積は1815ヘクタールが1702ヘクタールと、6%程度の減少となった。就業者の高齢化も問題だが、後継者、人が減っていることは一番どうにかしなければいけない課題だと感じている。既存農家は規模拡大を進め、3ha以上の規模拡大に向け機械化を図りながら、また労働力を確保しながら増やしている。いずれにしても高齢化がそれなりに進んでいることもあり、後継者の育成も非常に大きなものになる。その中には新規参入の方たちをどう入れていくかが非常に大きいと思っている。農家の方たちと新規参入の方とでパネルディスカッションを行なった。新規参入の方はまだ10年ほどだそうだが従業員を雇っていて、その人たちへ暖簾分けのような形で、1人は富里市、もう1人はほかの市町村とのことだが、何人か育てた人たちをその地域で受け入れてもらえるようにしているとのことだ。農家の子弟だけではなく、新規参入の方にどう支えてもらうかを考えなければいけないと感じている。

定住化について、ほかの市町から来た人が定住して農業をしているというケースがあり、農地だけでなく住むところも提供している市町村がある。将来的に農業面で

はそういう受け入れ体制等も考えていかないと、富里市の農業を支えていく人の数が心配だ。

耕作放棄地があるとイノシシなどの獣被害があり、近隣でも出てきているところがある。一気に環境が変わってしまうこともあるため、歯止めをかけていかないといけない。農家の方と一緒に連携しながら考えていきたい。

## 委員

- ・私からは2点申し上げたい。ひとつは意見、もうひとつは質問というか確認となる。まず意見から、概要版P2に『将来都市構造図』がある。P1の『第1章 富里市の現状と課題』『⑥成田空港の機能強化等に伴う近隣市町との連携強化』で「成田空港都市圏としての連携体制の構築」を課題として挙げており、広域連携が必要だということだと思うが、『将来都市構造図』において広域連携の視点が感じられなかった。例えば千葉市の都市計画マスタープランを見ると、こういった図のなかに成田空港がポンチ絵的に入っており、成田空港と千葉市を双方向の矢印で結んで「成田交通軸」という文言が入っている。同様に東京も位置付けられていて、「東京臨海交流軸」という形としている。要は「成田空港や東京のポテンシャルを活用して地域活性化を図るまちづくりをしていく」こととして、広域の視点で都市計画マスタープランを捉えているのが千葉市である。概要版の『将来都市構造図』を見ると、成田空港が位置付けられてはいるが宙に浮いている感じで、成田空港をどうしていきたいかわからない。少なくとも「広域連携道路軸」の紫の矢印が、少なくとも成田空港に繋がっていないといけない。また紫の矢印がそれぞれ外に出ているが、どこと結びつけてどういう風に活用していきたいのか、その点も必要な視点でないかと思う。都市計画マスタープランは20年の計画であるため、20年後を想定すると、自治体の財政はどちらかと言うと厳しくなっていることが予想される中で、交流連携の視点は必要になってくる。この図だけでなく全体的に交流連携、広域連携の視点を入れた計画としてほしい。

2点目は質問になる。本編P22に『将来フレーム』とある。これから人口が減る傾向に入るため、この人口フレームは非常に重要だと認識している。その中で確認だが、中間年となる平成38年は総人口49000人となっていて、この数字は2年前に作られた人口ビジョンでは、平成37年に52700人となっている。平成37年と38年で1年差はあるが、2年前の人口ビジョンと比べると約4000人少なく、下方修正されている形になっている。さらに人口ビジョンには2020年に53000人とあり、この53000人はまちづくりの最上位計画である総合計画に同様の記載があるため、人口ビジョンは総合計画を踏襲したもので策定したと考えた。最上位計画である総合計画と人口ビジョンで53000人弱としているものが49000人となった点について、庁内でオーソライズされた数字なのかどうかを確認したい。上位計画と整合性が合わな

いと、総合計画自体も見直さなければいけないことが危惧される。

事務局：吉池課長

- ・将来フレームの中間年が 2026 年であり、49000 人の総人口と書かせていただいた。都市計画マスタープランについては上位計画である市の総合計画に則すことがひとつ、また県の策定する都市計画区域マスタープランとの整合性も図る必要があると、国の都市計画の方針で定められている。都市計画という分野において、県の区域マスタープランと大きく乖離してはいけないという面がある。この中間年の人口については区域マスタープランとの整合を取らせていただいた。人口ビジョンについては平成 32 年に市の総合計画において、それが実現されたとして 53000 人を出発点とし、そこからだんだん下降していくような設定がされていると思う。中間年については県の上位計画に則した数字としている。

目標年である平成 48 年は、富里市の人口ビジョンの推計値を参考にしながら定めている。これについても人口ビジョンにおいてはパターンを 3 つ考えている。53000 人を出発点とするものもあるが、都市計画サイドとしては少し絞った形で、53000 人を出発点とするのではなく、パターン 2 で計算しているものがある。成田空港が 30 万回計画され、市民意識調査から計算した希望出生率等が達成された形で人口ビジョンを定めているが、目標年については人口ビジョンと整合を取った形でフレームをあげさせていただいた。加えさせていただくと、成田空港 30 万回で当時は行なっていたが、今後の成田空港の機能強化により 50 万回を見込んだ形で検討されているところではある。これについては詳しい内容が伝わってきていない状況ではあるが、成田空港の拡張、例えば仮に 1000 **ヘクタール** 拡張されるとなると人口増も想定されるため、ある程度含みを持たせた中で記述することを検討させていただきたいと思う。

委員：

- ・富里市の小学校では「私たちの富里市」というものを使っている。3、4 年生に市から無償で配布されており、これを見るとペガサスプランの目次と同じような流れになっている。はじめに富里市全体の写真があり、「協働のまちづくり」というところで各学校の航空写真がある。勉強が進んでいくと、北部は家がたくさんあり道路が整備されているところ、中央は公共施設が集約しているところ、南部は畑の多いところと紹介され、最後には「住み良い暮らしにするためにはどうすれば良いか」までが書かれている。要は未来の富里市を作っていくのが今の小学生であり、ペガサスプランの目標年次を見ても、2036 年は今の小学 1 年生が働き盛りで 6 年生が管理職になるような年代となる。人財育成の面から、「真剣に富里市のことをしっかりと教えていかなければならない」と、マスタープランの概要を見た時に感じた。先

行きが暗いと感じたのは、私が勤務している南部地域は「保全型農業振興ゾーン」という名前がついていて大変聞こえは良い。農業は大事にしていかなければならないものであり、自慢できる美味しいものがたくさんある。それから景観という面で、北部や中央にはない素晴らしい景観がある。そういったものはこれからも保全しなければならないが、例えば道路は交通機関が全くなく、バスは走っていない。八街まで出るのが早いですが、子どもたちは自家用車か歩くしかない。私は佐倉市に住んでいるが、雪が降ったときは八街まで来て、八街から学校まで歩いて行った。景観や農業の振興ゾーンは良いが、交通網について、せめてバスが走るようになってほしいと思う。これは切なる願いだ。

〇〇委員の発言にもあったが、私の前任校は〇〇委員が協働のまちづくり協議会の会長を務めている学校だった。そこでは〇〇委員を筆頭に区長や民生委員を含め、学校を拠点として、特に防災関係では進んだ方法で色々と動いてくださり、学校内にまちづくり協議会の事務局があった。まちづくり協議会や活動団体、市民といった人的な資源が一緒になることで、ものすごく大きなことができ新たな発想が生まれてくることを経験している。学校と社会福祉協議会や民生委員などと連携して、「保全型農業振興ゾーン」ではあるが、保存だけではなく、ますます発展していくように行政側も応援していただければと思う。

委員：

- ・地域コミュニティで高齢者や子どもたちが交流し、思いやりのある子どもたちを育てていくために学童を設置していただいたが、子どもたちの学力を見ていく時代だと感じている。学童にいる子どもの人数が少ない分余計に学力を見てあげられるため、「学童に行っていれば勉強も見てもらえる」というように、親が安心して働ける体制を作っていかなければならないと思う。多忙のため支援委員を辞めたいと思っ  
てはいるが、大事な子どもを預かっている割には賃金が安いという短期間であるため、支援委員になりたいという人材はいない。学童で育った子たちが心配りできるようになり成長した姿を見られることが宝であり、パワーになっている。ひとりひとりに少しでもボランティアの気持ちが生まれるよう、住民への意識づけが必要になってくる。

健康志向でウォーキングをする人が増えているが、道路は狭い。健康的に歩くにはある程度のスピードが必要であるため、歩道がしっかりしていないと歩けない。県道を歩いている人を見るとゆっくり歩いていて、車がすれ違うたびに避けなければならない、安心して健康的なウォーキングはできない。健康的に長生きすることを目標に、外に出て人と関わっていくことが大切だと思う。

委員：

- ・都市計画マスタープラン素案に目を通したが、良くできている。おそらく県の指導によるマニュアルがあり、それに沿って作成しているのだと思う。以前のマスタープランも見たが、難しいことを考えていると感じた。

今回のマスタープランの前半部分でゾーニングや拠点づくり等あるが、あくまでもハードであり「いくらでも作れる」と感じた。これを具体的にどう進めていくのか、市の財政で、何年でどういうものができるのかについては一切記述がなく、希望しかない。果たしてできるのか心配だ。

住民はすべて人間であり、ひとりひとり個性を持つため、集まって話し合うことが重要だ。そういうコミュニティができるような場所づくりやイベントを開催し、住民の意見を聞くことが必要だと思うが、その点が書かれていないため心配という感じがする。マスタープランには様々な人が関わり苦勞して作成していると思われるので、一字一句に対して感想は述べない。ただマスタープランは一般市民に回るものなのか。

事務局：戸村主査

- ・法定マスタープランであるため、策定後は一般市民に公表される内容となる。

委員：

- ・質問させていただく。

基準年が2016年、目標年次は20年後の2036年となっているが、基準年はマスタープランを検討し始めたスタートの時点という考え方で良いか。策定終了までに2年必要だが、前回マスタープランの目標年は2018年となっている。この点を考慮して目標を立てたのか。

P3『検討体制』の【策定委員会】に「都市計画審議会などの意見を踏まえ」とあるが、都市計画審議会とはどういうメンバーで構成されているのか。

事務局：戸村主査

- ・都市計画審議会については、富里市都市計画審議会条例を制定しており、そこで定められている。具体的には定員が12名おり、学識経験者5名、市議会議員5名、関係行政団体の職員2名で組織している。

委員：

- ・策定後は議会の承認を得ることになるのか。

事務局：戸村主査

- ・議会へ報告し、都市計画決定後、最終的に公表する流れになる。

委員：

- ・本編P15『生活環境に対する満足度と重要度』のグラフが理解できない。斜めの線の上が「重要度の向上」、下が「重要度の低下」とある。向上・低下は動く線だ。縦線が21年度、横線は27年度の結果だが、どういうプロットでこの図ができたのか、一所懸命考えてもわからなかった。青①は「生涯学習」で、左図を見ると55～60は満足しているとのことだが、右図では27年度では65に近いが21年度は45～46くらいとなっており、意味がおかしい感じがする。私だけがそう感じているのかわからないが、ご認識いただきたいと思う。

本編P21『目標3：広域交通の要衝を支え、未来へつなぐまちづくり』の方針3に「自助・共助・公助それぞれの連携によるまちの創出」とある。これは目標3の『広域交通の要衝を支え』という文言とかけ離れていると思う。自助・共助・公助は防災の専門用語であり一般的な用語ではない。「行政と住民が一体となって協働のまちづくりを推進する」というような文言にしないとおかしいのではないか。方針3については、目標1の方針3「災害に強く、犯罪や事故が起こりにくい安全・安心な環境づくり」に入ってくる文章だ。「東日本大震災等の大規模災害における教訓を踏まえ、自助・共助・公助に基づいて自然災害に強いまちづくりを進めるとともに」というような形にすれば良い。

こういう計画を策定して実行するにあたり、期限や予算が不明であるとただの文言の羅列であり、住民は「本当に実施できるのか」と危惧する。

事務局：吉池課長

- ・ご意見は承っておく。これからのまちづくりの推進方策等については、今後、都市計画マスタープランで地域別構想を策定していく予定で、それに併せる形でまちづくりの推進方策を検討していく予定であり、ご理解いただければと思う。

委員：

- ・スイカロードレースでは医師や看護師を派遣して不測の事態に備える体制を整え、救急隊と一緒にいざという時に対応している。スイカロードレースはテレビや新聞などで取り上げられ、富里市をPRする一番の方法で、とても良いことを行なっていると思っている。スイカロードレースが都市計画にうまく使えるかまでは考えていないが、市としてスイカロードレースを発展していきたいという考えがあるなら、このレースをマスタープランにうまく位置付けられれば良いと感じる。

医療の観点から、国では2025年に向けて色々な方策を展開している。地域包括ケア

システムとして、地域の中で中核的な病院とかかりつけ医が連携して役割分担しながら医療や福祉を支える形で、転換期にあると思っており、それに対応するように努力している。富里市の医療拠点は成田駅近くに設けているが、一次救急から三次救急まですべて大病院で対応していたかつての時代と違い、大病院は急性期を担当し、少しでも早めにリハビリ専門の病院に転院してもらい、より早い回復を目指すという役割分担の時代に入っている。住民にはぜひともかかりつけ医を決めていただき、日常的な通院はなるべく近くの病院へ通っていただくことになると思う。これから人口減少・高齢化が進むため、いつまでも車を元気に運転してどこまでも行けるという時代ではなくなる。先ほど交通網の話が出たが、高齢者がかかりつけ医に通えるような公共交通を考えていかなければいけない。同時に、いざという時の急性期を担当する病院がすべてバックアップしていく体制を取る時代になっていくと思われる。計画にも「高齢者が日常的に病院に通えること」を考えられるようなプランをぜひとも加えていただきたい。

委員：

・交通は道路整備と一心同体のようなところがある。整備方針等の記述があるが、実現すればバスは走りやすくなり安全に運行できるため、非常に良いと思っている。色々な自治体と総合環境その他、県外を含めて話をしている。現実的にバス会社でこんなことが起きていることについて、聞いていただきたい。

バスが走っていて渋滞が遅れると乗客はいなくなる。原因は交通量の多さで、右折レーンや矢印信号などちょっとした整備で解決できる箇所は結構あるが、道路計画的に「4車線道路になれば良い」など大きいところから入っていく。我々から見ても難しいと理解しており、細かいところから色々なところに要望するが、なかなか進まないため、私が入社した時と同じような走行環境のまま走っている箇所が殆どになる。自治体、警察と協議すると、折角付いた信号機に矢印信号が付いておらず、かなり前から要望されて順番となりやっと信号が付いたが、矢印信号分の予算がないというのが現実だった。その町では信号は付いたが、今まで行けた道が行けなくなり、信号無視しないと入れないため住民が騒いだという経過があった。矢印信号を付けるくらい簡単だと思うが、警察としては別物であるため難しいようだ。

時差式信号は矢印信号に変わるものだが、矢印信号があれば安全に通行できる箇所があり市と一緒に警察へ要望したところ「丁字路の場合は極力時差式信号で処理し、矢印信号は付けない方針」という返答が、県警察交通部からあったとのことだ。法律で決まっているのか予算上の取り決めかは不明だが、要望はあったので安全対策として時差式信号の秒数の見直しを行なうとの話だった。要望してもかえって動けなくなるようなことが実際に起きている。横の繋がりがいかに大事か。大きな道路整備は本当に助かるが、身近なものの改善が成されれば大きいものに投資しなくて

も良くなる。人口減少により財政が厳しくなる中で大きなインフラ整備ができないのであれば、小さなところから改善していければ良い。バスが通りやすいということは、一般市民も動きやすいということになる。

都市マスタープランには入っていないが、交通道路網、インフラ整備においては警察との連携はかなり重要なポイントになってくる。大きな方針を決めるのがマスタープランではあるが、個々の具体案に入った場合に、私が今話した内容は現実的にある話のため、「折角始まったのに変な方向で中途半端に終わった」という事例は県内外にある。策定するのであればそういう部分も十分精査できるような体制、簡単に言えば横の繋がりが必要だ。

委員：

- ・委員の方々は多方面の行政所管に触れるお話をされていた。ペガサスプランには所管行政だけでなく、関連行政部門とかなり詳しい関係を持ったものも多いという感じを受けた。

一言で言うと「きれいなまちづくり」として、ペガサスプランには廃棄物に関しての記述はあまりたくさん書かれていない。要するに「きれいなまちづくり」という道標を立てれば良いと感じているが、ほかの道標に関しては「関連行政部門とどこで関連している」ということを含めた表記となっている。これは「都市計画課という行政部門だけでなく、ほかと一緒に協議してこの道標を立てた」と、可能であれば、見る人がわかるようにしてほしい。

「きれいなまちづくり」という言葉に対応して「住んで良かったまちづくり」と、前回委員会でも発言した。住民や商業者、学校や教育に関わる者と色々な立場があると思うが、地域別懇談会やパブリックコメントを始める際に、所管から「こういうことに関しても意見をいただきたい」という具体的なことを提示して集められれば、より具体的なニーズが上がってくると感じた。

座長：

- ・県の「まち・ひと・しごと創生」の人口スキームの座長を務めていた時に感じたが、この地域において地方創生の推進力は空港であり、空港がどのような形になるかが非常に大事なことだと思っている。その中で地域振興連絡協議会が雇用推計を試算しているが、22万～30万回に増えるスキームについては、雇用が空港圏で約7万人増加するという推定がされていた。そこまでは「まち・ひと・しごと創生」の人口推計のなかに入っているが、空港は第三滑走路の件について議論されており、第三滑走路を建設する方向へ行くと思っている。最終的に決まっていなくても、その方向性へ向いた場合には50万回となる。現在26～27万回くらいの発着率があるが、それが50万回になった時にどの程度の雇用が創出されるか空港内部では試算し

ているようで、直接的な雇用だけでも3～4万人の間になると聞いている。これが周辺まで含めるとどの程度になるか、私は10万人以上増える可能性があると思っています。そうなった場合に富里市はどういう風にするのか。基本的な市の方針にもよるが、雇用がある以上富里市にも住んでいただく。あるいは事業所に来ていただくことを戦略的に行なっていくべきだと思うが、空港との連携や動線上の問題、人口スキームを根本的に変える可能性がある。成田空港周辺は状況が違うと考えても良いと私は思っているが、その場合は戦略的に仕掛けていく必要があり、何もしなければ増えることはない。都市計画区域の市街化区域を拡げる・拡げないというよりも人口、雇用が増えることに対して、富里市が住んでいただく受け皿になれる可能性があることをよく考えるべきだ。20年後の中間年で49000人という設定であり、この推計で果たして良いのかという根本的な話となるが、この点は議論していただきたいと思う。

空港では慢性的な人手不足で、農業人口についても減ってはいるが、面積は減っていない。新規営農もそうだが、実際に働いている人たちにとっては労働力が必要となる。外国人労働者についても法律が多少変わったようで、受け入れる方向に進むとみられ、その場合にも人口推計は変わってくると思っている。この部分についてはフレキシブルに考えた方が良い。そのためには空港との動線問題、交流できるような環境づくりが重要であり、道路網整備を含めてマスタープランに入れていくべきだ。

委員：

- ・都市計画は色々な分野に関わりがある。根本的には人が住み、人が住むということは生活や働くことが必要であり、移動することも当然ある。それを含めて都市計画という括りになる。「まちをどう作るか」を目に見える形にすることがマスタープランである。「人が住む」とは何かと考えていたが、各委員の発言どおりだと思う。人口構成、教育環境、安全面、災害への備えなど、なかなか書ききれない。これをいかに理解しやすい記述とするかはかなり難しいことではあるが、「将来のまちをどうするか」を伝えるためにマスタープランを作成している状況だと思っている。色々な意見をそれぞれの立場から発言いただいたとおり、都市に住む・農業・コミュニティとあるが、都市と農業はバランスを取らなければならない。農業は農業の問題もあり、現状の農業環境、景観の問題と守るべきものは守らなければならないが、便利さがなければ若者が住むには不十分であり、魅力もない。その部分のバランスを取るのがこちらである。

人口はおそらく全体としては減っていく方向で、部分的な増加や維持はあるだろうが、その部分をどう見極めるかは非常に難しい。社人研が推計している日本全国の人口からそれぞれの都道府県別に割り振った人口があるが、県の総合計画でも人口

は何パターンかの推計方法で算出し、各市でも同じようなことが行なわれている。成田に関しては言えば空港の機能拡張問題で、どこにどれだけの人口が増えるのか、働く場ができるのか、非常に難しいことだと思っている。確かに県の広域プランでの人口と都市計画の人口が大きいと、それに対する道路や下水道などサービス施設の規模拡大が課題となるため、その部分が難しいと思う。一定レベルとしては活性化で人口は増加した方が良いが、施設計画となると現実に近い方が無駄はない。人口の考え方の差が出てくるのはやむを得ないと思っているが、市で検討していただきたい。

富里市には基本的に鉄道駅はない。広域道路は前回マスタープランからほぼ引き継いだ形で位置付けられているが、空港機能拡張や圏央道ができつつありインターチェンジの新設が考えられている。交通環境に変化がある中で、前回の平成14年都市計画マスタープランから時間が経過していることから言うと、周辺市でもそれぞれの道路について考えている部分はある。基本的にはこれで良いと思うが、広域間の道路についての考え方は県を含めて検討してもらえればと思う。

富里市は都市計画では少し特殊であり、市街化区域人口が少なく市街化調整区域人口の方が多い。調整区域内に居住する人が多いため、調整区域の生活利便性をどう考えるかが必要だ。空港の就業人口が増えることに対して工業団地の立地も考えられるため、市街化調整区域の土地利用についても都市計画マスタープランで触れる必要があると思われる。

委員：

- ・概要版P1『第1章 富里の現状と課題』『④富里ブランドを活かした産業の活性化』で、現状が「農業就業者の減少」で課題が「販路拡大等の農業振興」となっている。修正が可能であれば、「多様な担い手の確保・育成による農業振興」という形にしていきたい。

事務局：

- ・参考とし、記述は検討させていただく。

## 5 その他

- ・事務局より、今年度の作業内容、次回懇談会の開催予定について報告

## 6 閉会